「自律」「共生」 ～学力向上 感動の創造 共有･一体感～

南部中学校だより

2022.12. 23　　第10号

校長室を華やかに飾るシクラメン

『親守詩（おやもりうた）』から思う・・・子どもの心

南部中学校長　黒見隆久

「親守詩」とは、自分を育ててくれた親を思い、感謝の気持ちを伝えようとする詩です。今年で７回目となるこの取り組みに今年も参加しました。

２年連続となる「学校賞」を受賞したのをはじめ、３歳の保育園児から大人まで、1,１４５点の応募作品の中から７名の生徒たちが表彰を受けました。（表彰式は 12/4 倉吉交流プラザで行われました。）

温かい親子の絆を感じさせる作品や、ストレートに「好き！」という気持ちを伝える作品、思わず「クスッ･･･」と笑ってしまうような作品など、子どもたちの思いがあふれる作品ばかりでした。

中学生ぐらいになると、日ごろはちょっぴり恥ずかしくて言えない「ありがとう」や、ほんとは思ってる素直な気持ちを表現した作品が多く、今まさに子どもから大人へ成長しようとしているまっただ中なんだなぁと感じました。そんなときだからこそ、保護者、家族、家庭の理解やサポートは大切なんだと改めて感じることができました。

「家庭教育」というのは、こんなにも温かくて、子どもたちを豊かにする力があるのですね。

「人と人とがつながる」とは、こういうことをいうのだと思います。

中学校は明日から冬休みに入ります。家庭や地域でゆったりと過ごしながら、今年一年の振り返りと来年への願いや決意を、家族で語り合っていただきたいと思います。

少し早いですが、本年は大変お世話になりました。２０２３年もよろしくお願い致します。

では、「親守詩」の受賞作品を紹介します。

【定型詩（５･７･５）の部】

●ごはん何　聞いた回数　無限大

●そっけない　父の言葉が　大好きだ

【作文・詩の部】

●僕は野菜が嫌いだ。でもそれを食べさせようとする母がいる。トマトやキュウリ、レタスに海そう。僕はそれを嫌々食べる。でもそれで母が喜んでくれたらそれでいい。いつもいつも体のためとか言って食べさせてくる。でもそれは僕のためだって分かっている。だから食べる。おかあさん、いつもありがとう。

●「いってきます。」「ただいま。」その言葉を聞くたびに仕事に行くんだな、帰ってきた！と思える何気ない日常の言葉だけど、それはとてもすてきなものだと思う。こうゆう言葉があるから安心できる魔法の言葉。これからも、こんな日常的な言葉を大切に、たくさん使っていこうね。

●僕は一人じゃない。ふり向けばお母さんがいてくれる。困った時は助けてくれるお父さんがいる。一緒に笑える兄がいる。一緒に遊べる弟がいる。僕は一人じゃない。「ありがとう。」なんて恥ずかしすぎて、言えないよ。「ただいま。」って笑って帰るから。これが僕のありがとう。

●今年になって母が転職した。弟も小学生になり、やることが増えた。先日、母が、「いそがしい。辛い。」と涙を流していた。めんどくさくて嫌なお手伝い。嫌だと文句を言ってしまうこともあるが、引き受ける量を少しずつ増やしていこうと思う。
お母さん、いつもありがとう。

●家族みんな、仕事や部活、習い事で帰る時間がバラバラです。でも夜ごはんは、ほぼ毎日みんなが帰ってきてからみんなそろって食べています。その時間はとても楽しいです。遅い時間でも迎えに来てくれたり、時間を合わせてくれてありがとう。これからもよろしくお願いします。

【定型詩の部】

鳥取県知事賞　２年　杉原　流成　　家族賞　２年　森下　一那

【作文・詩の部】

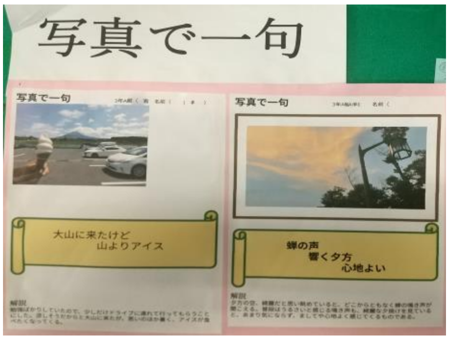
大会長賞	１年	岡﨑	良佑	家族賞	１年	山田	心音
家族賞	２年	野口	明	家族賞	２年	藤田	未来姫
家族賞	３年	宮本	莉恋				

「力作ぞろい」の生徒作品

夏休みから2学期の間に作成した作品を、2学期末懇談でひとまとめにして展示しました。そこには、総合的な学習、教科の授業や部活動などで生徒が作成した様々な作品が並びました。懇談中、多くの保護者の皆様に、ご鑑賞いただきありがとうございました。

また、11月11日～14日、「鳥取県中学校生徒作品展（兼西部地区中学校美術生徒作品展）」が米子市美術館で開催されました。美術の授業で作成した絵画やデザイン画が展示され、入賞した作品をはじめとして、県内中学校の数多くの力作が展示されました。

さらに、10月22日、23日、「南部町生涯学習作品展」がトレセンで開催されました。保育園・小学校・中学校だけでなく、生け花教室や絵画教室など生涯学習に取り組んでおられる地域の方々の作品も数多く展示されていました。その中でも、南部中生徒の作品は存在感を示し、多くの方々に鑑賞していただきました。



クロームブックを持ち帰ります！

長期休業中のクロームブックの持ち帰りが当たり前になり、明日から始まる冬季休業でも、出された課題に取り組むために、2，3年生はクロームブックを持ち帰りました。特に、3年生のクラスルームには、過去の入試問題やその解答・解説が掲載してあり、有効に活用してほしいものです。一方で、日頃より利用のルールやモラルについても話してきています。家庭においてもご指導いただきますようお願いいたします。

栄光の記録

鳥取県中学校生徒作品展　R4.11.11

絵画　「落とし物です。」

1年　赤井　理紗　生田蓮乃介　岩佐　真結
　　　岩崎　　杏　加藤　紗和　卜蔵　優杏

南部中学校
ホームページ
「南中 NOW！」

全国中学生人権作文コンテスト　R4.12.1

米子市人権擁護委員協議会長賞

3年　山本　和佳

第 45 回全日本アンサンブルコンテスト鳥取県大会　R4.12.17

○金管打楽器八重奏

「金賞」　2年　松本伊織、田貝唯來、耒海友結
　　　　　1年　加藤紗和、岩﨑　杏、山田心音
　　　　　　　　岡﨑良佑、赤井理紗

○木管六重奏

「銀賞」　2年　新井桃奈、内仲志琉、梅原　凜
　　　　　1年　岡田日和、賴田梅花、内田琴音

「南部雑感」

先月の学校だよりで、「AED」はどこにある?」の記事を掲載しました。「AED」を職員玄関横に移動して外から見えるようにし、緊急時にはガラスを割っていつでも持ち出せるようにしたという内容です。◆この取り組みは、その後広がりを見せました。生徒会とボランティア生徒が玄関設置のお知らせチラシを作成し、近隣にお住まいの方々に届けました。また、公民館、郵便局、駐在所、コンビニなど人が多く出入りする施設への掲示をお願いしたところ、快く賛同していただきました。◆小さな取り組みでしたが、「近くに住んでおられる方や、近くで働いておられる方と学校が、「AED」を通してつながったことを実感しました。◆同時に、地域の方々も、機会があれば学校の取り組みに、「協力したい」「力になりたい」と思っておられることが改めて分かりました。◆コロナ禍において、毎日近くで生活しておられる方々と学校がつながれる機会は激減しましたが、地域と学校が一つの話題でこんなにもつながれたことに驚きました。◆この取り組みは、「ふるさとの文化や自然、人のあたたかさに出会い、自らの将来に夢や希望を持ち、人との対話を通して、自立して生きていく力を身につける」という、「まち未来科」の学びとも通じるところがあります。◆「これは大切なことだ。チラシは、一番見えるここに貼ろう。」と言ってくださった施設もあり、「地域の温かさ」と、「地域づくりのお役に立てた」ことを肌で感じることができた取り組みでした。

[祐]